

目標達成計画

作成日：平成 23年 3月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の知識や技術を育てるため、内外研修を積極的に受講させたいが、職員の余力を持たなければ、人的には不可能であり、また人をそろえれば経営的にも難しさがある。	職員一人一人に、年1回の外部研修を受けてもらい、それらの研修を今度は、内部研修として発表して貰い、職員の知識向上に努める。	職員の勉強会参加のためには、最低限の職員数が必要であり、職員の確保や離職を無くすることが必要であり、職員安定のため事業所の職員同士の和と福利厚生に努める。	12 ヶ月
2	34	急変や事故発生に備え、ほぼ全ての職員がどこに通報し、どんな救急対応を行うかなどを知っておくことが必要であり、マニュアルの確認を実施する。	各職員に、年2回の救急救命の講習に参加し実技の実施を行う。また時々、朝礼に於いてマニュアルの確認を行い、理解度を向上する。	年に1名は、上級の救急救命の講習に参加し、講習済み書をもらう。また学んだ知識は内部研修として職員に伝える。	12 ヶ月
3	35	火災避難訓練について年に10回程行っているが、消防署の指導の下、通報、避難、消火、救急救命も取り入れて月1回実施したい。	年に12回の訓練を行い、内2回は消防署の応援を得て、通報、避難、消火及び救急救命も行う。	消防署も参加し、職員が中心に消防署指導の下、目標回数、目標種類を実施してゆきたい。今後このペースを守り避難時間の短縮を計って行きたい。	12 ヶ月
4	50	お金の所持や使うことの支援は、認知度の度合いや家族との話し合いに於いて決めなければならないと思っている	利用者さんの認知度に応じて、お金の所持を可能とするが、最大でも2~3千円として家族の方をお願いする。認知度が重度の方は、今まで通りの事業所の立替とする。	買い物などは、今まで通り職員とローソンやマルナカなど、3人単位で行き助言をしながら自分で払って貰うようにする。	12 ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。